

第2回 懇談会の概要

第2回四国21世紀の道ビジョン懇談会が13日(木)高松市内で開催された。今回は道ビジョンの中心となる方向付け「施策の体系・内容、施策の進め方、四国らしい工夫など今後の道づくりの基本的な方向」の案に対して、懇談会委員からご意見を頂いた。各委員からは、今後の道路整備(特に量的な拡大や活力に関する施策)について厳しい意見が出された。

『主な意見』

現状・課題に係る意見

- ・財政の再建の観点から道路を巡る情勢は非常に厳しく、地域間のせめぎ合いの激化が予想される
- ・時代の曲がり角に来ており、これからは、地域が自立してできることとできないことを考える必要がある

施策の体系に係る意見

- ・施策体系は生活者に視点を置いたものにすべき
- ・施策目標(19項目)が多すぎ。本当に大事なものの精査を
- ・将来の国土形成がどうあるべきか、また、将来推計等統計を踏まえたうえで道路を考えるべき

施策の進め方に係る意見

- ・身の回りの道路等の量的拡大については、如何にこれまでの道づくりを抜本的に変えていくか、低コストの道路の議論が必要
- ・道は使い方を考えてから整備を考えるべき 観光客よりも住んでいる人がどう使うかが重要
- ・安心と魅力にウエイトを置いてほしい 活力も同じバランスで求めていくのは困難

施策の内容、工夫に関する意見

- ・安心の面から高速道路の2車線は危険 4車線化を
一方、利用の少ない生活道路は1.5車線的整備を
- ・高齢者へのサービスや観光客に対しての環境面でのマイカー抑制を考慮して、公共交通機関の連携、利便性向上を考えるべき
- ・自動車以外の他のモードを如何に活かすかを考えるべき
道路は交通の主導的役割も担えるし、他機関の補完的役割も担える
- ・高速道路を走り抜けるだけでなく、道の駅、展望台など観光資源や四国らしい自然を楽しむ場所を作してほしい

- ・ 四国では、車だけでなく自転車と歩行者を組み合わせた"自然""健康"などのイメージを作ってもらいたい
- ・ ゆっくり走ることを四国らしさに加えてほしい
- ・ 四国は遍路道や癒しの国であるのでこうした魅力の活用を
- ・ 施策指標は、一般にわかりやすい用語で表現することまた、個人単位の指標が理解されやすい
- ・ 四国らしい工夫は事業を進める中で決まってくるもの 最初から決めつけずに柔軟性を持って進めてほしい